

## 4. 学生会の歩み

高専の歩みの中で学生会を見逃すことはできない。現在の学生会活動は休日開催の体育祭、高専祭を盛大に開催すると共に、高専体育大会や高校の大会での活躍も目覚ましいものがある。ここでは、学生会結成の歩みを草創の学生会新聞部発行の「北九州工業高専新聞第1号」の記事を掲載し、学生会の原点を紹介する。

### 自主自律をめざして（学生会結成のあゆみ）

第1回高専祭は、発足以来わずか四ヶ月あまりの学生会の主催でみごとに開催された。これで我等の学生会も名実ともに確立されたわけであるが、ここに学生会が結成されるまでの足跡をふりかえってみよう。

学生会を結成し、学生が自主的に新しい校風を創り上げていこうという主張は、昭和40年4月の開校当初から学生の胸中にはあったことである。しかし、仮校舎で出発した本校では、それ以前に解決しなければならぬ問題が多かったためか、学生の足並みは必ずしもそろわず、わずかに、教務系の指導で数部の活動が開始されただけであった。その部活動が次第に活発になるにつれて、部費その他の問題で、学生会の結成は一層切実に感じられてきたのであるが、一期生だけで学生会の将来にわたる根本的な問題を審議するわけにもいかず、学校当局の指導で結成を第二期生の入学まで延期することとなった。

その間一部の学生は、他高専や高校の学生会会則を広くあつめて研究を始め、一方新聞部が中心となって、各クラス・各部に「学生会結成準備委員会」の設立を訴え、その会の構成・任務・権限などについて学生の意見をまとめた。

その結果、2月下旬各クラス・各部からおのおの1名ずつ委員が選出され委員会が構成された。しかしその後、期末考査や休暇などに妨げられて、委員会が実質的な活動にはいったのは、41年4月の第二期生入学の時からであった。4月上旬、新入生の委員も交えた会合で、役員と任務を決め同時に役員は、「学生会会則原案作成委員会」の委員を兼任することに発足した。

こうしていよいよ本格的に学生会結成のための準備が始められたのであるが、学生会会則を作るという作業は、労力や手続き上非常に困難をきわめた。

第一参考にした他高専の会則がまちまちで、どれを準拠にすれば良いかわからない。例えば会長の選出方法については評議会の互選制・総選挙制のどちらにすれば良いのか。また学生会の組織はどうあるべきか、などさまざまな難問題と出会った。原案作成委員会のメンバーは何回も会合を開き、夜遅くまで熱心に討議したが、一応原案らしきものが出来上がるまでに一ヶ月を費やしてしまった。

5月7日準備委員会において原案を発表、慎重に審議した結論を今度はクラス会の討論にかけ、その結果を参考に原案を修正し、それを5月下旬厚生補導委員会に提出した。しかし、形式・用語などに不統一な点があり、また条項が微に入り細にわたっているため、かなり大部のものとなっていたので、厚生補導委員会は、以上の点を再検討するよう勧告した。そこで、幸・三隅両教官の指導の下に数回にわたって主として条文の形式上の整理を行ない、再度厚生補導委員会に提出した結果、承認されたのである。こうして6月29日、第一回学生総会が開催され、原案は満場一致で可決、前日の評議会で互選された総務役員を承認、ついで会計監査員を選出してわれわれの学生会はその第一歩を踏み出したのである。

当時の役員が以下のように紹介してある。



会長：長坂久 機械1期・野球部・思永中学・趣味  
(スポーツ、音楽)

副会長：一里塚博 機械1期・自動車部・引野中学・  
趣味(映画)

副会長：和田博 電気1期・庭球部・吉野中学・趣  
味(音楽)

書記：木下学 電気1期・無線部・添田中学・趣味  
(映画)

書記：山市良造 電気1期・庭球部・槻田中学・趣  
味(スポーツ)

会計：河村健 機械1期・水泳部・高見中学・趣味  
(スポーツ)

会計：佐々木公博 電気2期・水泳部・天籟中学・  
趣味(アマ無線)

### —会長あいさつ— (抜粋)

初代学生会長 機械工学科1期 長坂 久

わが学生会の目的は、会則にもうたわれているように、あくまで本校の教育目標を達成するために学生が主体的に各人の教養・趣味を高め、学生として品位ある人格を磨き、もって毎日の学園生活を楽しく明るく正しいものとする事である。そのためにも会員相互の間に常に民主主義の原理が尊重され、平和な社会を建設する態度が養わなければならないことは言うまでもなからう。

この目的が達成されるかいなかは、何よりも学生各自が強い自覚と深い協力精神を抱くかどうかにかかっている。私達役員は会員の総意にささえられて初めて十分な活動ができるのである。私は初代会長としてその任務と責任の重大さを深く自覚し、青

春のエネルギーをぶっつけてりっぱな伝統を築こうと決意している。

### —クラブ活動の立ち上げ—

1期生は仮校舎時代からクラブの創設を行なっている。昭和39年から始まった九州地区国立工業高等専門学校体育大会には、1期生が1学年である第2回大会から庭球と卓球が初参加を果している。

昭和41年7月24・25日、鹿児島で開催された第3回大会には、陸上、卓球、庭球、野球、排球、柔道、剣道の7種目46名が出場した。

ここで、卓球部の星野一男氏(電気2期)が個人優勝をとげ、本校第1号の金メダリスト(メダルはないが)となった。また、陸上100mで軍場康男氏(機械2期)が11秒5で第2位、走り高跳で荒木義信氏(電気1期)が1.65mで2位に輝き、剣道部の野田英治氏(機械1期)がベスト8と健闘した。

以下、高専新聞に掲載されている各クラブの写真により、創部まもない各部の様子を紹介する。



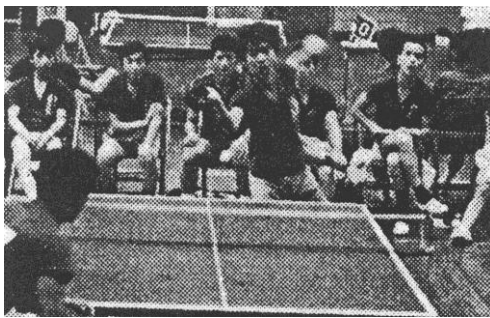
アマチュア無線部(昭和43年・免許取得)



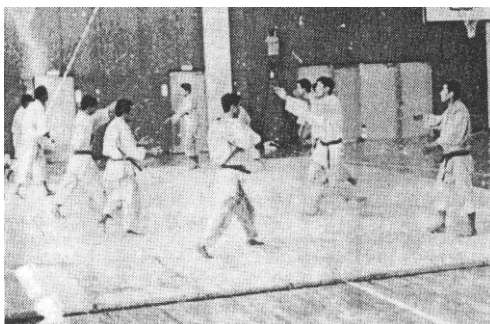
ラグビー部（昭和42年9月・小倉工校での練習試合）



バレー部（昭和43年6月・大分高専定期戦2-1で勝利）



卓球部（昭和42年9月・小倉工校での練習試合）



柔道部（昭和42年・畳の予算で柔道着購入事件？）

## －学生会活動の40年－

昭和41年に創設された学生会のその後の歩みは、北九州高専25周年記念誌p72～p79に当時の日高学生主事が詳細に記述している。それによると学生会活動も時代の流れとともに大きく変遷してきたことがうかがえる。紙面の都合により、ここではその小見出しだけを記述する。

### (1) 曲折の歩み学生会

- ① 学生会元年
- ② アイデンティティを求めて
- ③ 混迷の時代へ
- ④ 蘇える学生会

### (2) 躍動のクラブ活動

### (3) 秩序化された体育競技会と復活した校内駅伝大会

### (4) 時代を映した高専祭からパフォーマンスとしての高専祭へ

現在の学生会活動は、まさしく「④蘇える学生会」の延長線上にあり、すばらしい活動を展開している。その要因の一つに従来にもまして学校が課外活動を重要な教育の一貫として重視してきたことが上げられると思われる。すなわち、学生会行事への教員の積極的参加、クラス担任による学生の参加状況の掌握、クラブ顧問の熱意など、また、保護者の意識も従来とは大きく異なり、体育祭の休日開催も保護者の声の反映と思える。是非、5月の体育祭、11月の高専祭を見に来ていただきたいと思う。

この項の最後に平成17年度の九州沖縄地区高専体育大会の結果を掲載する。全国大会出場は、全競技の約3分の2が北九州高専で占められている。

### 【陸上】

- 男子400m 2位 藤井聡史
- 男子110mH 3位 松澤貴行

女子800m 1位 入江和美  
 女子砲丸投げ 1位 宇高さつき

【水泳】

男子100m バタフライ 2位 原田智弘  
 女子50m 背泳ぎ 2位 赤瀬唯  
 女子100m 自由形 2位 鳩村祐樹  
 男子200m 個人メドレー 2位 原田智弘

【バドミントン】 団体戦優勝

男子ダブルス優勝 中嶋・峠畑  
 男子ダブルス準優勝 木村・堤  
 男子シングルス優勝 木村昂史

【卓球】 団体優勝

【バスケットボール (男子)】 優勝

【バスケットボール (女子)】 準優勝

【ソフトテニス】 団体優勝

個人戦の部 男子 優勝 高原拓哉・内丸雄太  
 女子 優勝 本田沙織・若林香緒梨  
 準優勝 有吉美帆・木挽友香子

【ハンドボール】 準優勝

【剣道】 団体優勝

個人男子 優勝 和氣好史  
 準優勝 御手洗祐介  
 3位 中島豪志・松村宏和

女子個人 優勝 齋藤凜花

【柔道】 団体準優勝

個人(73kg以下級) 優勝 益城 啓  
 (90kg以下級) 準優勝 中山義朗

【硬式野球】 優勝

【バレーボール】 予選リーグ敗退

【サッカー】 2回戦敗退

【テニス】 1回戦敗退

歴代学生主事・学生会長一覧

	学生主事	学生会長
昭和40年	塚本公雄	
昭和41年	富永寛裕	長坂 久 (M)
昭和42年	富永寛裕	元嶋憲一郎 (M)
昭和43年	富永寛裕	梶原良雄 (M)
昭和44年	富永寛裕	梶原良雄 (M)
昭和45年	富永寛裕	桑原良宣 (M)
昭和46年	富永寛裕	中村哲也 (E)
昭和47年	富永寛裕	青木輝男 (M)
昭和48年	尾上静則	薄 誠 (M)
昭和49年	尾上静則	高橋忠夫 (M)
昭和50年	尾上静則	川口勝寛 (M)
昭和51年	尾上静則	入江司 (M)
昭和52年	尾上静則	角崎敏光 (E)
昭和53年	尾上静則	西 泰司 (M)
昭和54年	海老田輝巳	安部次男 (M)
昭和55年	海老田輝巳	古賀竜二 (M)
昭和56年	海老田輝巳	岩元信夫 (M)
昭和57年	海老田輝巳	山本浩一 (C)
昭和58年	久我明德	安田隆博 (M)
昭和59年	久我明德	小西精一 (M)
昭和60年	久我明德	森口重義 (M)
昭和61年	久我明德	渡辺広行 (M)
昭和62年	山内一秀	後藤稔男 (M)
昭和63年	山内一秀	田中敬二 (C)
平成 元年	日高一宇	宮脇一弘 (M)
平成 2年	日高一宇	井上竜次 (M)
平成 3年	日高一宇	東原重成 (E)
平成 4年	日高一宇	八谷顕吾 (M)
平成 5年	日高一宇	高瀬昌弘 (D)
平成 6年	日高一宇	岸良慎吾 (D)
平成 7年	佐藤正視	赤松亮 (E)
平成 8年	佐藤正視	木下佑治 (S)
平成 9年	佐藤正視	秋月剛士 (M)
平成10年	佐藤正視	宮本晃志 (C)
平成11年	大津修郎	権藤裕輝 (M)
平成12年	大津修郎	小野元貴 (E)
平成13年	大津修郎	山根章吾 (S)
平成14年	大津修郎	相部英彦 (D)
平成15年	大津修郎	西原優 (S)
平成16年	大津修郎	入門真生 (D)
平成17年	坂口浩	久保圭一 (M)